

正誤表

本書におきまして、下記のとおり記載内容に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

● p. 107 本文左段 上から7行目

誤 労作時呼吸困難とびまん性の肺疾患がなく、換気機能の指標である1秒量 forced expiratory volume in one second (FEV_{1.0}) が術後に年齢・性・身長から予測される値（以下、予測値）の40%以上あるいは2l残れば肺全摘術が、1.5l残れば葉切除が平均的な手術死亡のリスク範囲内（葉切除なら4%未満、全摘なら9%未満）で計画できる。

↓

正 説明がつかない労作時呼吸困難やびまん性肺疾患がなく、換気機能の指標である1秒量 forced expiratory volume in one second (FEV_{1.0}) が2lより大きければ肺全摘が、1.5lより大きければ葉切除が、あるいは年齢、性、身長から算出される基準値の80%より大きい（% FEV_{1.0} > 80）ならば、平均的なリスクの範囲内（葉切除なら4%未満、全摘なら9%未満）として肺切除が計画できる。